

## 個人だけでなく団体、人間だけでなく学校も

第7回の特別賞には、お墓でパーティーのできるように、お墓を取り囲みベンチ兼外柵のある共同墓が入賞した。東京都品川区の松原惇子さん（当時52歳）が応募した。

個を生きる女性達の碑として生きている時から集い、お墓でパーティーをしようと共同墓を完成させました。シングル女性の共同住宅を考える会、グループハウジング研究会から



からスタートしたSSSネットワーク（NPO法人）の共同墓です。終の棲家であると同時に、生きている間に集うことができるようテーブルとベンチのデザインにしました。血縁にとらわれずに個をすすがしく生きている女性達の美しい共同墓があってもいいのではないのでしょうか。

第15回には、人間ではなく学校の「お墓」が特別賞を受賞した。少子化の影響で、2009年3月に103年の歴史の幕を下ろすことになった北海道新十津川町の吉野小学校。雪深い未開の地を、100年以上も前に開墾して村を作り、そして学校を作った。想像を絶する物語がこの村にはあった。忘れてはいけないこの村の歴史を記憶にとどめ、さらに未来への夢と希望を創造する役割となるようにとの願いが記念碑（学校のお墓）に託される。全長47メートル、幅5メートル、最も高いところが3メートルという広大な北海道ならではの規模の大きさだ。地元の石を使い、ベンチと鉄のフレームと103個の自然石でつくられている。吉野小学校閉校記念事業協賛会が受賞した。



第22回に特別賞を受賞したのはNPO法人日本サハリン協会（代表・斎藤弘美）。札幌市郊外の霊園に建立したサハリン残留邦人のためのお墓は、祖国に戻りたいと願いながら亡くなられた方々の鎮魂の碑である。樺太と日本をイメージした向かい合う2本の円筒形の墓石、その間には2つの国を隔て、そしてつなぐ海と空を表したブルーのガラスがはめ込まれている。刻まれた白いカモメ2羽が、わずか43キロの海峡を自由に行き来している。

